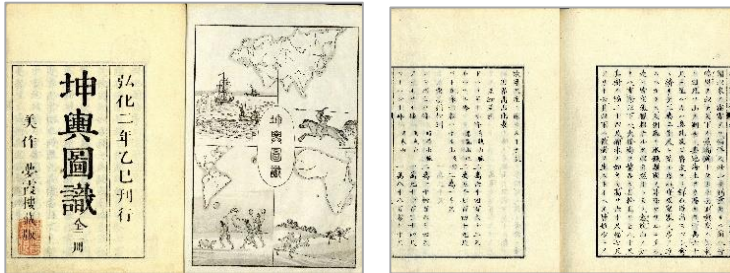


こんよずしき

#8 坤輿図識

作者：箕作省吾（みつくり・しょうご 1821-1847）

刊行：弘化2年（1845） - 弘化4年（1847）



[290. 8/2]

📖 解題

■ 内容

『坤輿図識』は幕末に刊行された世界地理書。辞典や地理書などの複数の蘭書を情報源として編述されたものである。正編は5巻3冊、補編は4巻4冊。

正編では六大洲（亜細亜、欧邏巴、亜弗利加、南亜墨利加、北亜墨利加、豪斯多辣里）の各総括をはじめとして、諸国の沿革や人口、気候や産業等について述べている。オーストラリアやアメリカなど、従来の書物では記述が乏しかった地域について、多くの字数を割く。補編は「遺す所ろの国土及び各地の沿革・形勢・風俗等を収録」することを目的として、世界の火山や山脈、砂漠等の分布をまとめた「輿地総説」をはじめ、各国の軍事力の解説や、歴山王（アレキサンダー大王）や亜理斯多得列氏（アリストテレス）等の人物略伝などを収めている。

本書は刊行当時から多くの知識人たちに読まれた。特に幕末の志士、吉田松陰（1830-1859）は、野山獄に投獄された際、本書を差し入れるよう兄に依頼し、下獄後も、本書をテキストとして弟子達に講義を行うなど、深く愛

読したことが知られている。

■ 作者

作者の箕作省吾は、陸中国水沢藩出身の世界地理学者。江戸に出て、医師であり蘭学者の箕作阮甫（1799－1863）の門下となり、後に阮甫の三女しんの婿養子となった。弘化元年（1844）に刊行した『新製輿地全図』は、フランス製の世界地図を編訳したものであり、『坤輿図識』はその解説書的な役割を持つ。

省吾は『坤輿図識』の補編を執筆中に咯血し、病を押して全4巻を書き上げるが、刊行を見届けることなく26歳の若さで病没した。

📖 本文を読む

<翻刻>

「坤輿図識」「坤輿図識補」（『箕作省吾』半谷二郎編著 旺史社 1991）
[290.1Z/209]

「坤輿図識」「坤輿図識補」（『日本近代思想大系 13 巻 歴史認識』田中彰、宮地正人校注 岩波書店 1991）[121.9W/168/13] ※抄録

<影印>

『江戸時代庶民文庫 「江戸庶民」の生活を知る 55 坤輿図識〈正編〉』
小泉吉永解題 大空社 2015 ※当館未所蔵

『江戸時代庶民文庫 「江戸庶民」の生活を知る 56 坤輿図識〈補編〉』
小泉吉永解題 大空社 2015 ※当館未所蔵

📖 参考文献

『鎖国時代日本人の海外知識 世界地理・西洋史に関する文献解題』開国百年記念文化事業会編 乾元社 1953 [203.31/1]

『箕作阮甫の研究』蘭学資料研究会編 思文閣出版 1978 [289.1/1482]

『水沢市史 3（近世 下）』水沢市史編纂委員会編 水沢市史刊行会 1982
[212.2/119/3-2]